

『相談支援の日々、現場から』

地域支援課 管理課長 吉岡 弘三

社会福祉法人以和貴会は令和2年度法人の方針である「変化と考働」に基づき活動をしております。それは社会情勢や環境、法人内（ご利用者様）の変化をいち早く察知し、しっかりと考えた後に行動をする、その結果として職員の変化と共に法人もより良い方向に変化していこうということです。

さて、社会情勢の変化でいうと先ずは新型コロナウイルスの流行が挙げられます。これは、世界規模の変化であり、人類全てが生活様式を含めた様々な変化を受け入れなければならなくなりました。

そのような環境の中、私が担当する相談支援事業所「生活支援センターしえくく」も例外ではなく業務の変化が求められております。相談支援事業所の仕事内容は、福祉サービスを利用する為の障害支援区分認定や「どのように暮らしたいか」という事をご利用者様、ご家族様とご相談した上でのサービス利用計画の作成、そしてご利用の開始後、そのサービスが順調に進んでいるか確認するモニタリング業務などです。業務の内容上これまでではご利用者様、ご家族様と直接ご面談させていただく場面が多かったのですが、「新型コロナウイルス」の影響を受けて直接の面談が困難なケースも増加し、電話や手紙、インターネットなどを通じた新たなコミュニケーション手段を取り入れる様になりました。これを機にご利用者様の支援の一つとしてICT技術の導入を積極的に検討しております。

つまり、「新型コロナウイルス」という大きな「変化」にご利用者様、ご家族様が翻弄されることを少なくし、安心して福祉サービスをご利用いただけるよう、職員一人一人、そして法人が「変化」に対応すべく「考え」て「働く」を実践しよう試みています。

その「変化」の中、我々相談支援事業所「生活支援センターしえくく」は、今年度より相談支援員を4名に増員し活動しておりますが、4月～9月上旬半期において、香芝市、葛城市及び近郊の市町村から成人と児童を合わせてサービス利用計画作成件数192件、モニタリング件数165件、障害支援区分認定調査件数51件をお手伝いさせて頂きました。この数字は昨年の同時期と比べ大きく増加しており、「ニーズが変化するご利用者様の要望に込えている適正なサービスが継続的に実施されているか」という観点から特に今年度に力を入れております「モニタリング」は、昨年の2倍の件数となりました。

これからインフルエンザや新型コロナウイルスの流行が本格化する季節を控え、我が法人が地域の方々の為に如何に貢献出来るかという事を常に念頭に置きながら「考働」を継続し、以和貴会の相談支援事業所「生活支援センターしえくく」に相談すれば何とかしてくれると思っただけのよう「変化」を継続していく所存ですので、今後とも気兼ねなくご相談頂ければと存じます。



事業活動紹介 ～地域支援課～

今回は、地域支援課の「児童支援（放課後等デイサービス）」及び「生活支援センターShake」、「グループホーム Noa」についてご紹介致します。



■児童支援（ゆらくデイ、HUG・LIVE）

コロナ禍で活動の自粛を続けておりました余暇支援活動ですが、感染対策を講じながら、ついに再開できました。スタッフも子どもたちも待ちに待った余暇活動ということで、8月に実施しました「夏祭り&花火大会 in ポノボビル」では36名の子どもたちが参加してくださり、大盛況で終えることができました☆



また、9月に実施した「パン作り体験&大運動会」の活動についてご紹介を致します。今回の活動では「小学生グループ」と「中高生グループ」に分かれて行いました。小学生グループは「大運動会」を開催。コロナの影響によって各小学校の運動会も規模が縮小されている状況ということもあり、換気や殺菌消毒を行いながらデカパンリレーや玉入れ、パン食い競争など小学校の運動会さながらのプログラムを企画し、たっぷりと楽しんでいただきました！！

中高生グループは、ポノボビル 1F で当法人が運営しております“スイーツファクトリーモンスター”にて、「パン作り体験」を実施しました。

実際に店頭に並べられているパン生地を使用し、パン職人の説明を聞きながら「アンパン・メロンパン・ハムロール・くまパン」の4種類のパン作りに挑戦！

中でもチョコペンで顔を描いていく「くまパン作り」は、子どもたちそれぞれの個性が出ており、完成したパンを見せ合って大喜びされていました。



今回の活動も総勢 30 名の子どもたちが参加してくださり、大盛況で活動を終えることができました。

今後も子どもたちが楽しめる様々な地域資源を活用した活動や、法人内事業所と連携した活動等を企画し、たくさんの経験を積んでいてもらいたいと思います。

■生活支援センター Shake「しえ〜く」

「生活支援センターしえ〜く」では、地域で暮らす障がいのある方やご家族様からの様々な相談に応じ、必要な情報の提供や助言を行っています。

福祉サービスを利用される場合、ご相談者の希望や要望を基にサービス等利用計画の作成を致します。また、福祉サービスの利用開始後は、定められた期間ごとに計画の見直し（モニタリング）を行い、安心して福祉サービスをご利用頂ける様にサポートを行います。

また、ご相談者の希望される福祉サービスと社会資源等を繋ぐ「要」の役割を担い、継続的に福祉サービスを利用・活用することが出来るように調整をして行きます。さらに、ご利用者を中心にご家族や関係機関との連絡調整を行うことで、障がいのある方の「その人らしくその人なりの人生」に近づけられるように総合的・継続的に支援してまいります。

香芝市近隣地域で暮らす障がいのある方の困り事や悩みがございましたら、お気軽にご相談ください。



■グループホーム Noa「のあ」

グループホーム「のあ」では、職員2人と世話人・宿直者12人で協力し、アットホームな雰囲気を大切にしております。その中で今年は特に余暇の充実に力を入れています。

まずは、川遊びをしたいと言うご利用者の長年の夢を叶える事が出来ました。初夏には蛍も飛び交う澄んだ川で、最初は足だけ…次に腰まで…そして最終的には肩までつかりました。川の流れに身を任せて、気持ち良さそうにぷかぷかと浮かんでおられました。ご利用者、職員とも全身びしょ濡れになりましたが、とても楽しい時間でした。



次は、野球観戦。大の阪神ファンのご利用者は、野球場に行かれた経験がなく、京セラドームに入って、周りを見渡し、あまりの広さにびっくり！（その顔を写真に収めなかった。残念！）試合は引き分けで、六甲おろしを歌うことは叶いませんでしたが、次は絶対に歌うぞ！と声を上げてきました。翌日から職員の顔を見るたびに「また行こうな」と言われており、その次は「飛行機に乗ってみたい」と熱望されています。1つの夢が叶えば、次の夢に向かっていく。人として当たり前の欲求です。ご利用者の喜ぶ顔を見る事ができ、夢のお手伝いが出来る素敵な仕事だな〜と実感しました。

ゆらくの里改築事業 ～地鎮祭～

入所支援課 管理課長 中島 正寛

9月より、いよいよ「障害者支援施設 ゆらくの里」の改築工事が始まりました。

昭和63年の開所から32年が経過し、この歳月の中には様々な出来事がありました。みのり寮設立や風鈴山荘の開設、人に目を向けると多くの方がゆらくの里に来られ、そして去って行かれました。30余年の歳月は、到底一言では語り尽くせません。

また、開所した当時の福祉施設は、個室ではない4人部屋などが普通で、プライバシーやプライベートという認識も社会的に薄かったように思います。それが時を経て、個人の権利意識が高まり、それが障がいを持つ方たちの権利擁護にも波及し、法整備も進んで行きました。その中、ゆらくの里の個室化はご利用者を始め、ご家族、職員の強い願いでもありました。その願いを形にしたものが、今回の改築工事です。職員それぞれが支援を頑張っておりますが、現状のもの以上にその方に合った支援が出来ると考えております。

そして、迎えた9月4日。大安を選んだこの日でしたが、朝からかなりの雨が降っていました。ご参加いただいた方に「生憎の天気になってしまいました…」と私が話し掛けると、『雨降って地固まる』といいますからね」とおっしゃいました。何故かその時、成程と納得したことを記憶しています。そんな嘆きから一転、晴れやかな気持ちで地鎮祭は始まりました。お祓い、地鎮の儀、玉串奉奠と予定通りに進行していきました。地鎮祭は、これから土地を利用させていただくために、土地の守護神様に許しを得て工事の無事を祈る大切な儀式です。完成後に住まれるご利用者のことを考えつつ、理事長をはじめとする法人関係者も念を入れて祈願させていただきました。



(上) 地鎮祭の様子 (下) 地鎮祭参加者による集合写真



改築後のゆらくの里イメージ図

妙に納得してしまった「雨降って地固まる」の言葉を後日調べました。この用語は有名ですが、地鎮祭で雨が降るということも縁起が良いようです。地面が固まることで、「建物にしっかり耐えられる、地盤がしっかりした土地」になるそうです。また、「雨が降り込む」ことは、「幸せが降り込む」「富が降り込む」という意味もあるそうです。偶然かもしれませんが、この日は旅行や引っ越しにも向いているとのことで、二重、三重に縁起の良い日だったようです。

ただ、一つの心残りは工事契約から地鎮祭まで時間が無かったため、ご利用者さんに参加して貰うための準備時間が無かったことです。竣工式には、全員は難しいにしてもご利用者の代表の方にも参加していただければと考えております。

最後になりましたが、工期中はご利用者を始め皆さまにも多大なご迷惑をお掛けすると思いますが、ご協力の程よろしくお願いいたします。

通所支援課 職員研修会

8月29日

今年度も、昨年・一昨年に引き続き、貝塚ケアサービス研究所所長の貝塚誠一郎先生にお越し頂き、「支援従事者のためのマナー研修 partⅢ～利用者や家族が信頼できる支援を届けるために～」と題して、職員向けのサービスマナー研修を実施致しました。

今回は「ストレス」と「分かりやすく伝える」というテーマで講演頂き、特に「ストレス」のお話では、支援員としての行動の在り方についてとても考えさせられる内容でした。

「ストレスが溜まるとマナーやコミュニケーション力が低下する可能性が高くなり、マナーやコミュニケーションの乱れは虐待の始まりとなる。」とのことでした。話を伺っていくとこれまでの人生経験で思い当たる事がたくさん出てきました。

- ①動きが落ち着かずバタバタとしてしまう
- ②コミュニケーションを取ろうとしない
- ③他者からの声掛けに返答がきつくなる
- ④言葉遣いが雑になる 等



①②③は自分が過去に取ったことがある行動であり、③④は他者から私が受けた行動でした。

上記のような行動が続くと、他者は変な気遣いをするようになり、近寄ってこなくなります。このような体験を思い出し、職場での人間関係がストレスに占める割合が大きいのだと改めて感じました。

また、福祉・介護職員にとって、これらのことが常態化していくと雑な支援に繋がり、やがて虐待の始まりとなると言われ少し怖くなりました。コミュニケーション力が低下する事により、自分の価値観の押し付けを行い、身体虐待へと発展してしまうと気付かされました。

私は支援員として、ご利用者に興味を持つ事を心掛けるようにしています。マナー（節度）に気をつけながら、言葉だけではなく表情や行動に注意し、写真やイラスト、文字等を用いてご利用者の思いを知ること、お互いのストレスが軽減し、ご利用者の心身が穏やかになり、表情が和らいで行く様子を実感する事があります。



「自分にストレスが溜まると余裕がなくなる＝“興味を持つ”気持ちが持てなくなる」のですが、現在の私は“興味”を持ち続けられているのでストレスが少ないのだと思います。この環境を作り出してくれている職場の仲間への有難さを感じる一方で、今回の研修を通じ、私には良い環境だが、他の職員は同じように感じられているのか？とも考えるに至りました。

私にとってだけでなく、全ての職員にとって魅力的な職場となるよう、他者の思いや変化に気づける環境を作り出し、ご利用者やご家族に信頼をしてもらえる様に行動をしていきたいと思っています。

アート活動「アトリエ それいゆ」便り

絵画サークル・アトリエそれいゆ
岡橋 三起子

新型コロナウイルス感染症が世界中で猛威を振るっている中、皆さんの活動も新しい生活様式にシフトし、従来の常識が通じず不自由な思いをされている方が多いと思います。アトリエそれいゆの活動も、感染防止の観点から、ご自宅で好きな時間に1人で取り組めるようにと通信講座を開設しました。今回は、この活動の一端をご紹介します。

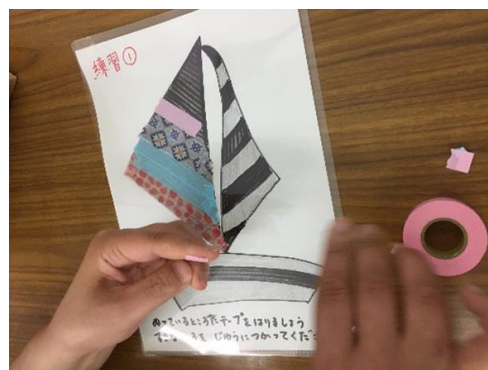
始まりは、2019年11月22日～24日に近畿大学にて開催された「アートミーツケア学会」に参加した事です。当時、アート活動で何か新しい取り組みができないか模索していたところ、「アートミーツケア学会」のご案内をいただき、思い立って参加してみました。様々な研究成果発表を拝聴し、とりわけ「ホスピタル・アート」に関する発表が印象的で、中でも「マスキングテープを用いたホスピタル・アートの可能性」というタイトルの研究は、知的障がいのある人の支援にも応用できると直感しました。活動に取り入れるタイミングを見ていたところ、新型コロナウイルス感染症問題が勃発し、早速、自宅待機を余儀なくされているご利用者に提供しました。取り組みを提供させて頂いた方の中には、「もう課題ができあがったから、次の分に取り組みたい。まだかな？」と喜びの声を続々と聞くことができ、手ごたえを感じている次第です。発表者である田中 佳 先生(Tokudai Hospital Art labo, 徳島大学大学院社会産業理工学研究部准教授)をはじめ、研究に取り組まれた皆さん、アートミーツケア学会の皆さんには、言葉に尽くせないくらいに感謝の気持ちで一杯です。本当にありがとうございます。

今回提供した内容はとてもシンプルで、モノクロで描かれた下絵の上に OHP フィルム(透明フィルム)を乗せ、その上から好きな色のマスキングテープを貼っていくという制作方法です。また、このスタイルでは、

- ・マスキングテープは手でちぎってもハサミで切ることもでき、手先の訓練になる事
- ・マスキングテープは有害物質を含まず、衛生的で、環境を汚さない事
- ・マスキングテープは失敗しても何度でも貼り直しができる事

以上の利点が挙げられます。

制作を通じて、「一人でできた」という達成感を得ることができ、結果として自己肯定感を育む事ができるアイテムになっているようです。実際に取り組んでみて、内容的に自閉症の方のプログラム「自立課題」に取り入れても良いのではないかと感じました。完成した作品は、新型コロナウイルス感染症問題が終息した暁に、ポノビルの階段や踊り場壁面を使って、「コロナに負けるな!アート展(仮)」を開催し、展示する予定です。



マスキングテープの取り組みの様子

■上野の森美術館 日本の自然を描く展 入選

(主催:公益財団法人 日本美術協会・上野の森美術館、フジサンケイグループ)

アトリエそれいゆ・西谷光世さんの作品「コッコちゃん」が、「第33回上野の森美術館 日本の自然を描く展」に入選しました。この展覧会は、風景や風物・人物・静物など、私たちの身近なものを対象にしたコンクールです。新型コロナウイルス感染症が全国的に広がりを見せる中、展覧会の開催自体が危ぶまれています。今年もこうして審査結果を受け取ることができました。暗い話題ばかりの昨今に、一つ明るい話題を提供することができ、本当に良かったです。これも常日頃、アトリエそれいゆの活動を応援して下さいの皆様のお蔭と、心より感謝申し上げます。

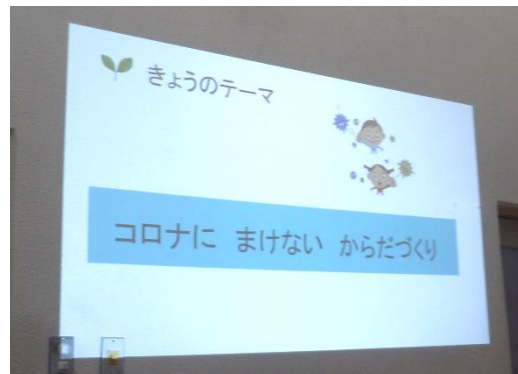


ゆらくの里 栄養教室

～『コロナに負けないからだ作り』～

7月13日

ゆらくの里にて、「コロナ禍での手洗いの大切さと免疫力をつけるための食事・休息・運動について」というテーマで、ご利用者に向けての栄養教室を開催しました。今回、講師を務めたのは、ゆらくの里の厨房で勤務をしている守武 真貴子スタッフです。普段は厨房で調理補助の職務に就いており、管理栄養士の資格を活かして、米田管理栄養士のサポートもしています。



栄養教室では、毎日の食事の中で口にする食べ物が、体の中でどのような働きをしているかということ、また、手洗いやうがいとは勿論、免疫力をアップさせるにはどんな事をすれば良いのかを説明しました。更に、ご利用者と一緒に、話題の『筋肉体操』で身体を動かし、大いに盛り上がりました。

《免疫力アップの秘訣》

- ① バランスの取れた食事をする
- ② たっぷり睡眠をとり体を休める
- ③ お風呂で体を清潔にし、温める
- ④ 運動をする など



守武スタッフ

今後もご利用者の皆様の健康な身体作りのための食事提供は勿論、豊かな食体験をして頂けるようしっかりと取り組んで参ります。少しの時間でしたが、ご利用者の皆様と楽しめる時間を共有させて頂けたことを嬉しく思います。



ゆらくの里・風鈴山荘『アイスクリーム作り』

8月14日

ゆらくの里・風鈴山荘にて、「アイスクリームを作ろう！」ということで、ご利用者の皆さんにアイスクリームの手作りに挑戦して頂きました！

まずは、大袋に氷と塩を入れます。牛乳・生クリームを入れた別の小袋へ、砂糖とバニラエッセンスを加え、ジッパーを閉じ、先程の大袋の中に投入。その大袋をバスタオルで巻き、グルグル回したり、揉んだり、振ったりしてもらいました。ご利用者の中には、バスタオルを抱えて踊りだす方もおられ、ご利用者も職員も笑いながらの応援でした。皆で頑張って揉み続け、しばらくするとアイスが完成。冷たくて甘い、昔ながらのバニラアイスが出来上がり！ご利用者の皆さんにも「冷たくて美味しい」と大好評でした。



『ふれあいキッチン SORA・空』 2020.10.24 (土) オープン!!

『ふれあいキッチン SORA・空』は、長らく香芝市総合福祉センターで営業を続けて参りましたが、同センターの改修工事に伴い、新たに香芝市ふたかみ文化センター2Fにてオープンさせて頂くことになりました。「ホッと落ち着くレストラン」として、新規メニューも加え、どこか懐かしさを感じられる料理を多数ご用意しております。皆様のご来店を心よりお待ちしております。

〒639-0243 奈良県香芝市藤山1丁目17-17 香芝市ふたかみ文化センター2F
TEL・FAX 0745-76-8708
営業時間…11:30～15:30(La15:00) 定休日…日・月・祝

Instagram



ホームページ



新入職員紹介

ご利用者のために精いっぱい頑張ります
どうぞよろしくお願いします



うえの さちこ
植野 幸子 (8月28日入職)
ゆらくの里 パート

ゆらくの里でお仕事を始めて2ヶ月近くが過ぎました。最初は何も分からなかったけれど、利用者さんや職員の皆さんと少しずつ心が通じるようになり、楽しく過ごしています。これからもよろしくお願いします。



うみの みきお
海野 幹生 (8月31日入職)
ゆらくの里 パート

ゆらくの里は人里離れた山中にありますが施設内は活気に溢れ、賑やかな所で驚いています。職員の皆さんはもちろん利用者の方々にも温かく声を掛けて頂いたり、見守って頂き心の励みになっています。今後もよろしくお願いします。

《ありがとうございました》

多くの方よりご寄附をいただきました。皆様方からの寄附を施設整備など、有効に活用し、ご利用者のために使用させていただきます。

《個人》

津田貞男、久世博子、戌亥京子、谷口融正、増尾明広、中筋廣次、石川時雄、佐井康治、片上芳子、久門喜美夫、匿名希望2名

《業者ほか》

山口ガス商会、(株)ステップワン、(株)タクサン、(株)田原建設

(順不同・敬称略)

《賛助会員募集》

引き続き賛助会員を募集いたします。同封の振込用紙にて会費のお振込を是非お願い申し上げます。

《編集後記》

暑かった夏も終わり、急に朝晩の冷え込みも強まってきましたので、風邪をひかないよう注意が必要です。秋といえば「食欲の秋」「スポーツの秋」「芸術の秋」と盛りだくさんですが、皆さんはどんな秋を楽しんでおられますか？新型コロナの影響で、家に居ることも多いと思いますが、秋をしっかり満喫しましょう。

発行： 社会福祉法人 以和貴会
住所： 〒639-0261
奈良県香芝市尼寺 616 番地
編集責任者：理事長 下村 卓司
Mail： office@yuraku.or.jp
発行月： 令和2年10月